

プラットホームにおける自己資源を活用した待ち方とプラットホーム資源の相互関係

本論文は、鉄道駅のプラットホーム空間を、より安全で人の待ち方に合った快適な待機空間とすることを目指し、観察調査によりプラットホームにおける人の待ち方を理解し、プラットホーム空間のあり方を追究するものである。

そのために日本と韓国のプラットホームで収集した計 2990 例の待機行動場面を分析し、待ち方に活用される資源を抽出・分類して、プラットホームでの待ち方を類型化した。特に、増加傾向にある自己資源を活用した待ち方に重点をおいて分析し、プラットホーム資源との相互関係を導き出し、今後のプラットホームの計画に有効な知見と改善策を提案することを目的とした。

本論文では、プラットホームの空間を物理的な側面だけでなく、インフォーマルな行動も含めた「人と人」「人と空間」の疎通体系として認識するところに特徴がある。

プラットホームにおける待ち方では、他人と視線を合わせることを避けるため、目のやり場となるものを求めようとする行為が多く見られる。近年ではそのために携帯電話・端末等を見ながら待つ行為が多く見られるようになった。また転落防止のための安全柵やホームドアなど、プラットホームに新たな空間要素が設けられるようになり、それに対応する人の行動が見られるようになった。本論文はそのようなプラットホーム空間における待ちの行動に影響を与える新たな空間的要因が加わってきたことを背景としている。

第1章では、研究の背景、目的、既往研究、位置付けなどを整理した。

第2章では、プラットホームの環境及び利用上の側面から特性を把握し、本研究の調査対象の選定と基礎となる理論的内容を考察した。

第3章では、調査対象の選定基準、調査の概要及び方法を述べた。

第4章では、プラットホームにおける待ち方について活用資源の依存を区分基準によって類型化し、類型別の利用者の一般的特性と混雑のレベルに応じた変化の内容を明らかにし、現在のプラットホームで現れる利用様態を示した。

本論文における分析の基準として、次の6つの待ち方の類型を導き出した。

第1 類型系： プラットホーム資源従属系

- ・1-A 類型 - プラットホームの位置資源活用型
- ・1-B 類型 - プラットホームの便宜支援・事故防止資源活用型

第2 類型系： 自己人的資源活用系

- ・2-A 類型 - 自己人的資源+プラットホームの位置資源活用型
- ・2-B 類型 - 自己人的資源+プラットホームの便宜支援・事故防止資源活用型

第3 類型系： 自己物的資源活用系

- ・3-A 類型 - 自己物的資源+プラットホームの位置資源活用型
- ・3-B 類型 - 自己物的資源+プラットホームの便宜支援・事故防止資源活用型

第5章では、待ち方と利用に直接影響を及ぼすプラットホームの「直接利用資源」の関係性の組み合わせを導き出した。

第6章では、待ち方とプラットホームで見られる外部の風景や広告などの「間接背景資源」の関係性の組み合わせを導き出した。

第7章では前章までの「待ち方とプラットホームの資源の相互関係」の考察結果に基づいて今後のプラットホームの利用環境の改善方向を模索して今後の研究課題を示した。

待ち方からみたプラットホームの未来は、「自己物的資源活用系」の待ち方が継続的に増加し、自己媒体とインターネットを通じた情報検索の可能性が拡大し、駅員の安全管理の役割が縮小すると見込まれる。

情報案内施設については、自己物的資源活用の待ち方が増えるのに対し、販売施設や情報案内施設の利用頻度は減ると見込まれるので、情報案内の設置位置は再整備される必要があり、情報案内の運営方式についても設置位置に応じた提供情報の内容の差別化をすることが求められる。

転落防止の安全柵については、安全柵内側前面を活用した視覚情報を有効化すること、安全柵の仕上げ（材質）を見通せるものにするなどの選択、安全柵の種類に応じた誘導ブロック黄色線の整備案が改善案として提言できることを示した。

これらの提案は、プラットホームでの待ち方の特性を利用環境の構成及び形態などと関連づけてとらえた結果を基にした改善案であり、今後の設計と評価のために有効な知見になると考えられる。

以上のように本論文は、鉄道駅プラットホームにおける自己資源を活用した待ち方とプラットホーム資源の相互関係を明らかにし、様々な行為と環境要因との関係を示し、改善案を示すことができた。

今後の公共的空間、特に待つ空間の計画に重要な知見を与えるもので、建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。